

令和8年度 九州国際大学付属高等学校

国語 入学試験問題

問題用紙（1～20ページ） 試験時間（50分）

注 意 事 項

1. 試験問題は、試験開始の合図があるまで開けないこと。
2. 解答用紙は、体の正面に置いて受験すること。
3. 試験開始後、解答用紙の所定の位置にQRコードを貼り付け、受験番号を受験票通りに記入すること。また、問題冊子の印刷の不具合などに気付いた場合は手を挙げて監督者に申し出ること。
4. 解答は、すべて解答用紙の枠内に記入すること。
5. 計算機、定規、分度器、アラーム、携帯電話等の使用および物品の貸し借りは禁止する。
6. 試験終了後、解答用紙を表にして筆記用具を隅に置き、監督者の指示に従うこと。
7. 体調不良等の場合は、監督者に申し出ること。
8. 問題用紙は、各自持ち帰ること。

字数制限のある問いについては、句読点も一字とします。

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

私は大学で長年、機械設計について教えてきました。そこでの経験を通じて感じたのは、どんな場面でも応用できる知識を学生たちが身につけるには、自分自身で小さな失敗を経験したり、他人の失敗を知ることが最も有効だということです。

多くの学問がそうであるように、このときはこうすべきだという「うまくいく方法」を教えるコウ^aギ^aを行っていると、眠そうな顔でつまらなそうにそれを聞いている学生がたいがい何人かいるものです。それが失敗の話を始めたト^bタン^bに、そのような学生たちまで一転して目を生き生きとさせ、熱心に話に聞き入るといことがよくありました。

不思議なもので、そのような失敗の話は、卒業後まで強く印象に残っている学生も少なくありませんでした。この原因を私なりに考えてみたところ、「同じ失敗をしてはいけないと感じることで、学ぶ必要性の認識が生まれたからだ」という答えにいたりしました。

失敗には、なにやら人を引きつける不思議な魅力があるのはたしかです。

その秘密に^cセマ^cってみようと、さまざまな失敗を注意深く観察し、体系的にまとめたのが、私が¹「失敗学」と呼んでいる考え方です。私は失敗とは、

「人間が関わって行うひとつの行為が、はじめに定めた目的を達成できないこと」

と定義しています。失敗には、いつも負のイメージがつきまといまいます。失敗を経験すると、人は誰でも悔しがったり、恥ずかしがったり、不愉快な思いをします。その一方で、人が新しいことに挑戦すれば、それこそはじめは失敗の連続なので困ってしまいます。

²そうした失敗を避けるために、過去の成功体験、成功事例に学んで必死に努力している人もいます。しかしどんなに準備をしたつもりでも、必ずヨ^dキ^dせぬことが起こり、やっぱり失敗を経験することになります。

³失敗しないためのいちばんの方法は、何も新しいことにチャレンジしないことです。しかしそうした人は、失敗はしないかもしれませんが、その人には成功も喜びも訪れません。それどころか何もなかったことで、結局^(注1)じり貧という結末が待っているだけかもしれません。

失敗はマイナス面にだけ目を向ければたしかにこれほど嫌なものはありません。しかし反対に^④プラス面を見てみると、失敗が人類の進歩、社会の発展に大きく^(注2)寄与してきた事実があることも忘れてはならないように思います。

^⑤昔から人間は失敗に学び、そこからさらに考えを深めてきました。人々の生活を快適にした画期的発明を振り返ってみても、そのすべては「失敗は成功の母」「失敗は成功のもと」などの言葉に代表されるような、過去の失敗から多くのことを学んでこれを新たな創造の種にすることでなし得たものなのです。

個人のことを考えても同じことがいえます。私たちが日常的に行っているすべての事柄、仕事でも家事でも、趣味でもなんでも、失敗なしに上達することは不可能です。人の行動には必ず失敗がつきまとうものですが、一方で^⑥そうした失敗なしに人間が成長していくこともまたあり得ません。

では、成長するために、なんでもかんでもとにかく失敗すればいいのかというと、そんなことはありません。失敗についてきちんと知り、Xを生かせるようにならなければ、失敗を「成功の母」や「成功のもと」にすることはできません。何も考えずにただ^⑦マンゼンと同じ失敗を繰り返しているだけでは、失敗は成功の母どころか大きな失敗を生み出す「失敗の母」「失敗のもと」にしかありません。

(畑村 洋太郎『失敗を生かす仕事術』から)

(注) 1 じり貧——徐々に貧しくなること。

2 寄与——ある物事に対して役立つこと。

問一 二重傍線部①～④に相当する漢字を含むものを、次の各群の1～4の中からそれぞれ一つずつ選び、番号で答えなさい。

① コウギ

- 1 レイギ正しくする。
- 2 カイギに参加する。
- 3 ギゼンのな行為だ。
- 4 中学校まではギム教育だ。

② トタン

- 1 タンネンに読む。
- 2 最センタンの技術を学ぶ。
- 3 語学にタンノウな人。
- 4 タントウ直入に聞く。

③ セマッテ

- 1 ハ克蘭会に行く。
- 2 あの人はハクジョウな人だ。
- 3 遠方でガイハクをする。
- 4 ハクシンの演技をする。

④ ヨキ

- 1 温暖なキコウ。
- 2 キンキを犯す。
- 3 ニンキを満了する。
- 4 優勝までのキセキをたどる。

⑤ マンゼン

- 1 注意力がサンマンだ。
- 2 コウマンな態度を取る。
- 3 マンネンヒツを買う。
- 4 ごマンエツの様子だ。

問二 傍線部①「失敗学」とありますが、それはどういうものですか。解答欄に合うように本文中から二十五字以内で抜き出し、初めと終わりの四字を答えなさい。

問三 傍線部②「そうした失敗」とありますが、それはどのようなものですか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 不愉快な思いや成功体験のどちらにもつながらない失敗。
- 2 個人と社会全体の成長や発展につながりうる失敗。
- 3 目的を達成できない悔しさや恥ずかしさをもたらす失敗。
- 4 社会全体ではなく個人の成長にしか役立たない失敗。

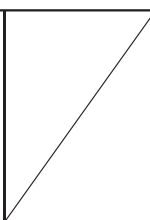
問四 傍線部③「失敗しないためのいちばんの方法」とありますが、この方法を選ぶとどのようなになりますか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 喜びや成功は訪れず発展を見込めない。
- 2 失敗をせず平穩に過ごすことができる。
- 3 成功や喜びへの憧れだけを抱き続ける。
- 4 成功事例に学び発展することができる。

問五 傍線部④「プラス面」とありますが、それはどのようなものですか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 失敗すると人にほめられること。
- 2 失敗が社会の発展につながる事。
- 3 失敗すると休めること。
- 4 失敗が楽しいこと。

問六 傍線部⑤「昔から人間は失敗に学び、そこからさらに考えを深めてきました」とありますが、「画期的発明」と「個人」は失敗をきっかけにどのような変化を起こしてきたのですか。空欄 は四字、空欄 は二字でそれぞれ本文中から抜き出して答えなさい。

	画期的発明
失敗との関係	失敗から学び、 <input type="text" value="I"/> にする。
個人	失敗を経験して、 <input type="text" value="II"/> する。

問七 傍線部⑥「そうした失敗なしに人間が成長していくこともまたあり得ません」とありますが、個人が失敗を意味のあるものにするためにはどうすることが必要ですか。その説明として適当なものを次の中から二つ選び、それぞれ番号で答えなさい。

- 1 なるべく失敗しないで成功を目指すこと。
- 2 前の人やり方をまねて冒険しないこと。
- 3 過去の失敗から学んだことを生かすこと。
- 4 同じ失敗を繰り返しつつ経験を積むこと。
- 5 自分の犯した失敗についてよく知ること。
- 6 決められた課題に一生懸命取り組むこと。

問八 空欄 に入る適切な五字以内の語を、本文中から抜き出して答えなさい。

問九 本文の表現や構成について説明したものとして、最も適当なものを次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 大学教員としての筆者の経験を冒頭で述べ、失敗に対する一般的な見方や考え方を明らかにしつつ筆者の立場を示すことで、読者が筆者の視点に重ねて読みやすい構成となっている。
- 2 失敗と成功という対義語を文章中で多用することによって、読者が対比的な論の構成を言葉の側面からとらえつつ、中立的な視点から読むことができる工夫がなされている。
- 3 成功と失敗の関係について世間一般の理解を示し、失敗の負の側面だけではなく人類にもたらした功績も挙げることによって、失敗の価値を多面的にとらえる構成となっている。
- 4 失敗という個人でとらえ方が異なる内容について筆者なりの定義を述べた上で、あくまで身近な個人の社会生活に限定して成功と失敗の関係を具体的に示す工夫がなされている。

問十 本文の内容に合致するものとして、最も適当なものを次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 成功するためには失敗を恐れずに挑戦し続ける強い意志を持ちながら、時代や自他の違いにとらわれることなく、様々な成功体験に学んで自分の行動を変えていくことが最も有効であるが、どんなに周到な準備をしても失敗を経験する可能性はある。
- 2 過去の成功体験以上に失敗から学ぶことが多いことは言うまでもないが、失敗を次の成功へと結びつけるためには他人の失敗から学ぶのではなく、自分自身の一つ一つの失敗と向き合いながら自分の認識や行動の傾向を分析することが望ましい。
- 3 現代社会においては大学生をはじめとした若者が失敗から学ぶ必要性を認識し始めているが、それは近い将来一人の自立した社会人として社会の発展に貢献しなければならぬ危機感から生まれたものであり、世代を超えて継承されるべきである。
- 4 人類は個人としても社会全体としても失敗を成功のもとにしなから成長や発展をしてきたが、やみくもに挑戦と失敗を繰り返すのではなく、過去の失敗から自分が何を学び、どのように生かしていくのかを考えながら行動していくことが重要である。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

【ここまでのあらすじ】

幼少期に母を亡くした沙月^{さつき}は、八歳年上の姉・未月^{みつき}とともに祖父に引き取られ、ウミガメが産卵^{ひめがうら}に来る姫ヶ浦海岸のそばで育った。しかし、沙月が小学校四年生のとき、姉は家を出て行ってしまった。沙月が中学二年生になったある日、町役場で働く高嶋^{たかしま}からウミガメ監視員である佐和に連絡が入る。カナダで衰弱して保護されたウミガメに、今は使われなくなった（姫ヶ浦JPN）と書かれたタグが付いていたので調査しているというのだ。高嶋は、カナダでウミガメを保護したタイムという青年を伴って、佐和の家にやって来た。偶然、佐和とともにいた沙月はその場に同席する。

「何か心当たりは、ありませんか」高嶋は困ったように眉尻^{まゆじり}を下げ、佐和に訊^きいた。「亡くなったお父さんから、なんぞ聞いてとりませんか」佐和は、タブレットの写真を見つめたまま二、三度小さくうなずき、口を開く。

「わたしです」

「え？」と高嶋が目を見開く。沙月も^①息^のを呑んだ。

「わたしがタグを付けたんです。父が保管しとったタグを」

佐和はそう言って立ち上がり、居間の引き出しから小さな手帳を持って戻ってきた。ページをめくって座卓に置き、メモした数字と標識番号を皆の前で照らし合わせる。

「プライヤーいんですか、タグを装着する道具も一緒に残ってましたし、父がやるのを何度も見て、やり方は知っていましたけん」

「ちよ、ちよっと待っててください」高嶋が混乱したように左手を上げ、右手の指でタブレットの画面^たを叩く。「カメは、このカメはどないしたんですか」

沙月はたまたま身を乗り出す。^①唇^{ひび}を動かさそうとした瞬間、座卓の下で膝頭^{ひざかしら}をつかまれた。佐和の手だった。

「姫ヶ浦のカメですよ」佐和が言った。「四年前の産卵で生まれたカメ。あのとき一匹だけ、浜に取り残されとった子ガメがおってね。弱っと

ったけん、そのまま海には放たれへん。ほなけん、わたしが世話することにしたんです」

「世話することにしたんですって……」高嶋が怒りを飲み込んだような声で言う。「そんなことがあったんやったら、すぐ役場に連絡してもらわんと」

「しようしよう思たんやけど、世話しよるうちに、かわいいになってきてねえ。気づいたら、ひと月、ふた月と経ってしもうてて」

「いくらウミガメ監視員やいうても、そんなこと無断でやられたら、条例違反になりますよ」

「悪い思えます。でも、情が移って手放されへんかったんです。ほらわたし、子どももおらんし、一人ぼっちでしょ」

② 高嶋は渋い顔でため息をついた。驚きに目を瞬かせていたタイムが、佐和に訊く。

「子ガメ、どうやって育てましたか」

「大きな容器を買ってきて裏庭に置いて、そこで」佐和は縁側と反対のほうを指差して言った。

「飼い方はね、父から聞いてなんとなく知ったんです。昔、日和佐中学校でウミガメを飼育しとったでしょ。飼育方法を父が教わりにいったことがあるんです。結局、姫ヶ浦小学校ではやりませんでしたけど。そのときの父のノートも残ってりましたけん」

「ほんで、どのぐらい飼うたんです」高嶋が仏頂面で訊いた。

「八月の終わりに保護して、翌年の七月の頭に海に放したけん、十カ月ちよつとやね。飼いよるうちに、『ヘッドスターティング』ちゅうのがあるの知ったんです。ああ、それをやってみたらええんやなと思てね」

ウミガメは千匹生まれても、そのうちたった二、三頭しか成体になれないと言われている。ほとんどの子ガメが生まれて数年のうちに命を落とすのだ。そこで、十カ月から一年ほど人間の手で育ててから放流し、子ガメの生存率を高めようという考え方がある。それが、ヘッドスターティングだ。

「ヘッドスターティングは確かにあちこちで試されとる」高嶋が厳しい声で言う。「しかし、それで本当にウミガメの数が増えるかどうかは、まだわかっとらん。私はそう理解してますよ」

「でも、この子はなんとか生き延びて、太平洋の向こうまでたどり着いてくれた」

タブレットに愛おしげな目を向ける佐和が、沙月の膝頭をつかんだ手をさりげなく左右に揺らしながら、続ける。

「この子がオスカメスかはわからへん。もしメスで、姫ヶ浦の浜に帰ってきてくれるとしても、それは三十年も先。その頃わたしはあの世や

けん、二度と姿は見られへん思ってたのに、ほんまに思いがけんことや」

ウミガメの雌雄しゆうは尾の長さで見分けるのだが、かなり成長した個体でないと判別はつかない。

高嶋は、表情こそ和やわらげることにはなかったものの、もう何も言わなかった。その代わり隣のティムが⑩頬ほおを緩める。

「私、いいカメラ助けました」

「ほんまに。お礼言います」

頭を下げる佐和の横で、沙月はもう堪こらえきれなくなって訊いた。

「ティムさんが日本に来たあと、このカメラどうなつたんですか。今も誰か、ちゃんと世話してくれよるんですか」ためていた言葉があふれ出る。③涙なみだまでにじんできそうだった。「この子、元気にしよるんですか」

「大丈夫」ティムは優しく微笑ほほえんだ。「元気になったあと、バンクーバーまで運んで、水族館に預けました。その水族館、海の動物のレスキューチームあります。今月、チームのメンバーが船でサンデイエゴ行く仕事ありましたので、カメラも連れていったそうです。たぶんもう今頃、カリフォルニアの暖かい海で泳いでます」

「佐和さん、黒潮見たことありますか」

海岸堤防のてっぺんに並んで立って、沙月は訊いた。日はもう西の岬みさきのほうへ傾き始めている。夕風ゆうなみ前の海風が、火照ほてった頬ほおに涼しい。もう夏も終わりだ。

「あるよ、なんべんか」

佐和は海の方ほうを見つめて言った。水平線の向こうで立ち上る入道雲は、西日で金色に輝く頭あたまの部分が風に流れて空に溶け込んでいる。

「子どもの頃、近所の漁師さんに船に乗せてもろて見たんが最初かな。それから、定置網ていせいあみに引っかかったカメラを父と船で引き取りにいったときにも見たなあ。そのときは、潮の境目さかいめがはっきりわかって、向こう側あしころが濃い藍色あいいろなんよ」

「やっぱり、藍色あいいろなんですね」

「太平洋を北のほうから来る海流に、親潮おやうしほいうのがあるでしょ」

「ああ、習いました」

「父から聞いた話やけど、親潮は栄養分が多いけん、プランクトンがようけ繁殖するんやて。潮の色も、緑とか茶色がかった色になるらしいんよ。黒潮は反対に、栄養が少ない分、透明度が高くなる。ほなけん、青黒う見えるんやて。藍染めの染め液が入った藍甕なんかよりもっと、深い深い藍色やね。そこに白い波頭がざわざわーっと流れとって。ほんまに、大海原の中の大きな川みたいやった」

「おじいちゃんも、おんなじこと言うてました」

「あの子も、あの潮にのって海を渡ったんやねえ」

④ どこかまぶしそうに目を細める佐和の横顔に、沙月は言った。

「佐和さん……ごめんなさい」

「ええんよ、あれで」

「でも——」

「わたし、何一つ嘘はついとらんしね。あの子を飼うてるうちにかわいいになってきたのも、ほんまのこと」

それでも佐和が、あの二人の前で一番大きな事実を隠したことに変わりはない。沙月をかばい、自分だけを悪者にして。

四年前、浜に取り残されていた子ガメを見つけたのは、沙月だった。

当時小学四年生。夏休みも終わりに近い、ある日のことだ。その三日前の夜中に巣穴から子ガメたちが脱出したことは知っていた。脱出の翌朝には、子ガメたちが海まで懸命に進んだ無数の小さな脚跡も見にいていた。

その日は朝から曇り空で、今にも雨が降り出しそうだった。朝食を済ませるとすることもなく、外へ出ると足は海岸に向いていた。

海はうねりが高く、打ちよせる波も荒い。空になった巣穴の様子を見てから通り過ぎ、東の岬に向かって歩いてみると、足もとで砂に半分埋まった白いレジ袋が **B** もぞもぞと動いた。風のせいにしては動き方がおかしい。カニでも入っているのかと思ひ、しゃがんでのぞき込むと、なんと子ガメだ。

巣穴からは東に百メートル以上離れた場所だった。今思えば、あの子ガメは生まれつき少し方向音痴だったのかもしれない。

すぐに袋から出してやった。沙月の手より小さな黒っぽい体は、甲羅までやわらかい。真ん中がでこぼこした甲羅の脇をそとつかむと、子ガメは体の割に大きな前脚を震わせた。

頭を海に向けて砂の上に置いてみた。前後の脚を弱々しく動かすだけで、まったく進めない。かなり衰弱しているようだ。直接海に入れてやろうかとも考えたが、白く巻いたあの波を越えていけるとはとても思えなかった。

このままでは、この子は死んでしまう。一緒に生まれた仲間たちは海へ出て行ったのに、一人置いていかれたこの浜で命が尽きてしまう。誰か大人を呼びにいかうとは考えなかった。⑤ 自分が助けるのだ。沙月はその一念だけで、レジ袋を砂から掘り出し、そこに子ガメを入れて持ち帰った。

海水をためた洗面器に子ガメを入れて、裏庭の隅すみに隠したものの、九歳の沙月には飼う方などわからなかった。ごはん粒や金魚のエサを与えてみても、食べようとしない。三日もすると、子ガメはほとんど動かなくなってしまった。

何もできないくせに連れて帰った自分のせいだ。助けるどころか、このままではこの子を殺してしまう。

沙月は洗面器を抱え、^b泣きながら佐和の家を訪ねた――。

「佐和さんは、なんであのかとき、役場に連絡しようって言わなかったんですか」それは、ずっと訊いてみたいと思っていたことだった。

「なんでやろねえ」佐和は少し間を置いて、続ける。「うちの玄関で洗面器抱えた沙月ちゃんがね、しゃくりあげながら何回も言うたんよ。この子ガメだけ置いていかれたの。置いていかれた子ガメが死にそう。置いていかれた子ガメやから助けない」

「え……覚えてません」

「それ聞いてね、ふと思たんよ。この子ガメは、沙月ちゃんなんやなって」

③「あたし――?」

「未月ちゃんが出ていったの、あの年の春やったでしょう？ お姉ちゃんがおらんようになってから、沙月ちゃん、ほんまに元氣なくなってきたから」

この子ガメは、^d沙月ちゃん――。

佐和の言葉が耳の奥でいつまでも響いて、沙月は小さく震えた。

震えているのは、九歳の自分だ。姉に置いていかれて、誰もいない浜に一人立ちつくし、涙をためた瞳を揺らしている。それを今初めて、十三歳の自分が抱きしめる。あのかとき誰かにそうしてほしかったように。

沙月は、やっとわかった気がしていた。なぜあるとき、子ガメを持ち帰ったのか。そしてなぜ今また、卵を盗んでまでそれを孵かえそうとしているのか。

姫ヶ浦のウミガメを保護したいわけではない。数を増やしたいわけでもない。ただ、自分の子ガメをこの手で海に放ちたいだけなのだ。

黒潮にのって、果てしなく広い海へ。

想像もつかないような、遠い世界へ。

(伊与原 新『藍を継ぐ海』から)

問一 波線部①～④の本文中における意味として、最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、番号で答えなさい。

① 息を呑んだ

- 1 ぱっとひらめいた。
- 2 ぐっとこらえた。
- 3 はっと驚いた。
- 4 ほっと安心した。

② 仏頂面

- 1 不満で怒ったような顔つき。
- 2 仏のように穏やかな顔つき。
- 3 感情をさとらせない顔つき。
- 4 憂いをあらわにした顔つき。

③ 頬を緩める

- 1 照れて顔を赤くする。
- 2 嬉しくて笑みを浮かべる。
- 3 怒って顔をゆがめる。
- 4 あきれて苦笑いする。

問二 二重傍線部A「怒りを飲み込んだような声」、B「もぞもぞと動いた」に用いられている修辞法として、最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、番号で答えなさい。

- 1 直喩
- 2 隠喩
- 3 擬音語
- 4 擬態語

問三 傍線部①「唇を動かさそうとした瞬間、座卓の下で膝頭をつかまれた」とありますが、なぜ佐和は沙月の膝頭をつかんだのですか。その理由として最も適当なものを次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 大人の話に割り込もうとした沙月のことを制止して、これまでの事情をよく知っている自分が話をした方が良いと思ったから。
- 2 身を乗り出して高嶋にくっついてかかりそうな沙月を落ち着かせ、子ガメを守るために冷静な話し合いをさせようと考えたから。
- 3 沙月が条例違反をしたのに自分が黙認していたことを言わず、監視員としての自分の立場を守ろうと考えたから。
- 4 沙月が最初に子ガメを助けようとした事実を言わず、自分がすべてをしたことにして高嶋から沙月をかばおうと思ったから。

問四 傍線部②「高嶋は渋い顔でため息をついた」とありますが、このときの高嶋の心情を説明したものととして最も適当なものを次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 佐和にどのような理由があっても子ガメを無断で飼育することは条例に反しているが、佐和を説得できそうになく途方に暮れている。
- 2 佐和の説明を聞き子ガメを無断で飼育したことは納得できない一方で、さらに非難することもできず不満があふれている。
- 3 子ガメを一定期間飼育しても仕方がないと思えるが、役場の職員である自分の立場からするとそれを認められずその板挟みに苦しんでいる。
- 4 佐和の子ガメに対する動物愛護の精神には同意するが、だからといって素人しろうとがカメを飼育しようとすることへの愚かさに頭を悩ませている。

問五 傍線部③「涙までにじんできそうだった」とありますが、このときの沙月の心情を説明したものととして最も適当なものを次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 かつて自分が関わった子ガメが生き延びていたということに感動しつつも、現在も無事であるかどうか心配している。
- 2 佐和と高嶋が話していたので自分が発言するのを我慢していたが、助けた子ガメが無事だったことがわかり興奮している。
- 3 小さな体で遠いカナダまで泳いだ子ガメに感激しつつも、保護された後のことを知りたいという好奇心がふくらんでいる。
- 4 佐和が自身の死期を口にしたことが悲しくそれに堪えていたが、子ガメも死ぬのではないかと不吉な予感がして不安になっている。

問六 傍線部④「どこかまぶしそうに目を細める佐和」とありますが、このときの佐和の心情を説明したものととして最も適当なものを次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 西日に照らされ金色に輝いている美しい景色を見て感動している。
- 2 かつて父から聞いた海の話や父の面影を懐かしく思い出している。
- 3 子ガメが無事に育って太平洋を渡ったことを感慨深く思っている。
- 4 残り少ない自分の人生を海の環境保全に費やそうと決心している。

問七 傍線部⑤「自分が助けるのだ」とありますが、なぜ沙月はそのように考えたのですか。その理由が示された一文を本文中から抜き出し、最初の五字を答えなさい。

問八 二重傍線部③④の「――」(ダッシュ)を用いた表現の説明として、誤っているものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 ①「でも――」は沙月が次に続く発言をうまくできずにいる様子を表現している。
- 2 ②「泣きながら佐和の家を訪ねた――」は回想から現在へと場面が転換されたことを示している。
- 3 ③「あたし――？」は佐和の発言が的外れで困っている沙月の心の揺れを表している。
- 4 ④「沙月ちゃん――」は沙月の心中で佐和の発言が響き渡っている様を印象付けている。

問九 Aさんのクラスでは、本文を読んだ後、作中の海の描写について考えることにしました。次の会話は、Aさんのグループの話し合いの様子です。本文の内容を踏まえて、空欄に入るものとして最も適当なものを次の中から選び、番号で答えなさい。

Aさん ―― 作中では、海の描写に藍色という言葉が何度も用いられているね。

Bさん ―― 作品のタイトルも『藍を継ぐ海』だし、何か意味が込められているのかも。

Cさん ―― 「青黒う見える」「藍染めの染め液が入った藍甕なんかよりもっと、深い深い藍色」とあるから、なんだか底知れない感じがするよ。

Aさん ―― ということは、 を表しているのかもしれないね。

- 1 沙月が恐れている、祖父や佐和が死んでしまった後の世界
- 2 沙月にとって憧れである、大人に指図されない世界
- 3 沙月が愛してやまない、様々な生き物であふれている世界
- 4 沙月にとって未知である、厳しくも果てしない外的世界

三 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

今の歌人は、大方雅言(注1)のまことの味あじを知ることなく、ただうはべばかりのひと一わたりを心得こころみえ **a** (注2)あて上なきことと思ふゆゑに、大きに古歌こかの

趣おもむきと違たがひて、深き味を失うしなへること多し。上下じやうげ **b** (注3)ともにおしなべてみなしかり。悲あはしきことなり。これ何なに **b** (注3)ゆゑぞなれば、我が智慧ちゑを磨みがきて、

書物しよもつを詳くはしく吟味ぎんみすることはなくして、ただ近代きんだいのあさあさしき先達せんだうの妄説まうせつをのみ信じて、この上うへ (注4)なきことと思ふゆゑなり。近代の先達に、

道の味を知り、古語こごの心をよく飲のみ込みたる人はみえず。みな **ア** (注5)の人々のみなり。 **②** (注6)その人々のいへることを金章きんしょうの如く信ずるゆ

ゑに、誤あやまりのみ多くなりて、いつとなく昔の詞ことばの味、歌の趣は失ふことのみなり。たまたま器量きりやうある人ありて、発明はつめいなることを言ひ出だして

人に知らせても、 **③** (注7)かへつてそれを妬ねたむ心よりして、「我慢がまんなり」「家の説せつに背そむけり」など云いひて **③** (注8)これを取らず。返かへつてその人を邪道じやだうのや

うに言ひなす。 (注10)我執がしふの至いたりなり。

〔『排蘆小船』から〕

- (注)
- 1 雅言 ——— 正しく良い言葉。
 - 2 上なきこと ——— この上なく良いこと。
 - 3 智慧 ——— 知恵。
 - 4 金章 ——— 手本として従うべき言葉。
 - 5 器量ある人 ——— 才能や力量に優れている人。
 - 6 発明なること ——— かしこいこと。
 - 7 我慢 ——— 自分の考えを主張しすぎること。
 - 8 家の説 ——— 歌道の師匠の家に伝わっている説。
 - 9 邪道 ——— 間違つた考え。
 - 10 我執 ——— 自分というものに執着すること。

問一 二重傍線部②「みて」③「ゆゑ」④「かへつて」を、それぞれ現代仮名遣いに直し、すべて平仮名で書きなさい。

問二 波線部①②③の口語訳として、最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、番号で答えなさい。

① 趣

- 1 雰囲気が次第に作り出されていく状態。
- 2 適切な処置がうまくなされている状態。
- 3 しみじみとした味わいや面白みのある状態。
- 4 美しいものと醜みにくいものがまざっている状態。

② 上下

- 1 和歌に熟練した人と初心の人。
- 2 身分が高い者と身分が低い者。
- 3 昔の時代の歌人と今の時代の歌人。
- 4 上の句の詠よみ手と下の句の詠み手。

③ 吟味する

- 1 自分の考えを決める際の根拠とすること。
- 2 物事の内容や事情などをよく調べること。
- 3 考えを練ねり直してより良いものにする事。
- 4 良いものを残して悪いものを取り除くこと。

問三 傍線部①「悲しきことなり」とありますが、何が「悲しきこと」なのですか。最も適当なものを次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 今の歌人が海外の学問だけを好むようになったこと。
- 2 今の歌人が古い和歌を詠まなくなってしまったこと。
- 3 今の歌人が昔の和歌をまったく評価しなくなったこと。
- 4 今の歌人が表面的な解釈だけで良いと思っていること。

問四 空欄 に入るものとして、最も適当なものを次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 愚昧ぐまい
- 2 賢明
- 3 権威
- 4 有力

問五 傍線部②「その人々のいへること」とありますが、その内容が示された部分を本文中から十五字以内で抜き出し、最初の三字を答えなさい。

問六 傍線部③「これ」が指している内容は何ですか。本文中から六字で抜き出して答えなさい。

問七 傍線部④「返つてその人を邪道のやうに言ひなす」とありますが、

A 「その人」とは誰のことですか。本文中から五字以内で抜き出して答えなさい。

B また、それはどういうことですか。最も適当なものを次の中から選び、番号で答えなさい。

1 自分の考えが間違っていると分かっている、自分の間違いを認めることが悔しいので、昔の人の考えが間違っていると主張するといふこと。

2 自分の考えが正しいと考えるあまり、昔の和歌に使われている言葉や風情ふせいを深く理解している人の話を聞いても非難をするだけであるといふこと。

3 自分の考えは代々伝わってきた正当なものであることを主張するため、新しく出てきた考えを伝統のないものとして世間で言いふらすこと。

4 自分の考えに自信は持てないが、自分の考えは正しいと信じたいため、昔の人の考えを否定することによって自分の考えを守ろうとすること。

問八 作者の批判を現代に当てはめると、どのような例が当てはまりますか。最も適当なものを次の中から選び、番号で答えなさい。

1 海外の文化に関心のある若者が外国語ばかりを重視して、母語を大切にす姿勢を持たなくなっていること。

2 動画で多くの流行歌が配信されているなかで、自分が気になったものを許可なく勝手に利用してしまうこと。

3 古典文学を積極的に学ぼうとする人が減少し、深い言葉の味わいを教える人が必要とされなくなっていくこと。

4 多くの「いいね」が付いている意見を疑いなく受け入れて、その考えを間違いのないものとして信じていること。

問九 この文章の作者が良いと評価している歌はどのような歌ですか。最も適当なものを次の中から選び、番号で答えなさい。

- 1 古代の中国において詠まれた優れた歌。
- 2 現代の達人によって詠まれた優れた歌。
- 3 古い時代の人々によって詠まれた優れた歌。
- 4 歌道のしきたりに従って詠まれた優れた歌。

